



日本聖公会婦人会 2024年10月30日発行
ニュースレター No.78

〒297-0032 千葉県茂原市東茂原 10-192 永井眞由美方

電話/FAX 0475-24-6915

沖縄から —互いに重荷を負い合いなさい。(ガラテヤ6:2)—

日本聖公会 首座主教
沖縄教区 主教 ダビデ 上原榮正

私たちの周りには、在日米軍基地、原発、被差別部落、アイヌ、在日、琉球、ハンセン病、難民、外国人労働者、男女格差、LGBTQ（性的少数者）、受刑者の再犯など様々な問題があります。これらは日本聖公会が宣教の課題としてきた「正義と平和」に関わる事柄です。他人事でも当事者だけの問題でもなく、誰もがこれらの問題と関わりながら、生活をしています。みんなの問題です。

沖縄県民の大きな関心の1つは、辺野古の米軍新基地建設です。綺麗な海が埋め立てられ、消えていきます。沖縄では基地建設に関して、話せる教会とそうでない教会があります。話題にしますと、周りの空気も冷えますし、米軍や自衛隊員などの信徒や工事関係者もいるからです。問題には触れない方が賢いようにも思えますが、問題解決はできません。問題解決には、不安や恐れを乗り越え、神さまから勇気を頂き、正面から向き合うしかありません。それは、どんな事柄でも同じです。



沖縄では、中国の軍事強化、ロシアの国境侵犯、北朝鮮の挑発的ミサイル発射などにより、米軍の演習や訓練強化、自衛隊基地の増設、新設が行われています。また台湾有事を理由に、石垣、宮古島住民の九州への疎開と方法の策定、北朝鮮のミサイル対策として地下シェルターの建設、避難訓練などを行い、県民の日常が破壊されています。戦争でターゲットになるのは、米軍基地や自衛隊基地のある所です。有事の際の危機感が煽られ、県民は不安や恐れの中に置かれています。本土で同じことが起これば、皆さまは喜んで、基地建設に賛成し、避難訓練にも参加されるのでしょうか。

パウロは、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマ 12:15) また「互いに重荷を担いなさい。」(ガラテヤ 6:2) と教えました。喜ぶ人と共に真に喜ぶことが出来るのは、悩みや苦しみに泣いている時に、共に重荷を負い、共に泣いた人だけだと思います。問題を避けたりせずに、問題と向き合った人が、希望を持てるのだと思います。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。 (ローマ 5:3, 4)

第27(定期)総会後第2回会長会報告

去る6月18日(火)、19日(水)の2日間、日本聖公会婦人会第27(定期)総会後第2回会長会が、横浜教区主教座聖堂・横浜聖アンデレ教会会館で開催された。18日はまだ梅雨入りもしていない関東地方が数日前から大雨の予報で、9時からスタンバイしていた関係各位とても不安だった。案の定新幹線の遅延・停止、飛行機の遅れとの情報が入り、各教区からの代議員と傍聴者、そして関係団体の方々が無事にいらっしゃれるのかどうか・・・と、気を揉みながら順次到着の皆さまをお迎えした。



9教区からの代議員9名、傍聴者9名。ACWCJから2名。感謝箱献金事務局、会場書記、会計検査委員、担当聖職、そして役員会を含め37名で14:45より議事の開始。2023年1年間の各種報告、議案の審議(8議案。感謝箱献金関連が7、役員会より補正予算の件が1)。無事に全8号が可決。(詳細は決議録をご参照願います。)第8号議案の補正予算に対しては、日本聖公会婦人会の今後を考え、ことに経済的な一面からの見通しを懸念するご助言やアドバイスが頂けた。これからの婦人会を考えていこうという岐路に立つ中、経済のことはそのスタートであると感じた。

決議第1号	Bangladesh の少数民族ガロの女性たちは、日常的に様々な差別や不利益、不平等にさらされて生活しています。洪水が頻繁に起きる地域で、お互いに助け合いながら問題の解決を目指している「リグリマ・Bangladesh」を支援する「リグリマ・Japan」に40万円を2024年の1年間お献げする。この活動は20年を迎える今年12月をもって終了する。
決議第2号	ケニアのキテンゲラ市にある「サイディア・フラハ」(しあわせのお手伝い)は、1996年から貧困や家庭の事情により養育が困難な女子のための児童養護施設と地域の子供たちの幼稚園・小学校・中学校を運営する活動を続けています。今でも男子に比べて女子が育児放棄や虐待されることが多いからです。教育を受けて、仕事を得ることがその子の自立へつながります。この活動のために、40万円を2024年の1年間お献げする。
決議第3号	コンゴ民主共和国は多くの鉱物資源を埋蔵・産出する国です。しかし、鉱物資源をめぐる利権争いによって長年、紛争が絶えず、武装勢力による女性や子どもへの性暴力被害が続いています。女性たちを治療してきた産婦人科医のムクウェゲ医師は、この性暴力を終わらせるために、正当なルールで鉱物資源を取引することを世界に訴えています。このムクウェゲ医師の社会啓発運動を支援する日本のRITA-Congoを通じて20万円を2024年の1年間お献げする。

決議第4号	2021年2月に起きたミャンマー国軍によるクーデター以来、民主化を求める人々への弾圧と武力による攻撃は今も続いている。選挙で選ばれた代表による政治が実現し、ミャンマーに平和が訪れることを願って、アトゥトゥミャンマーの働きに20万円を2024年の1年間お献げする。「アトゥトゥ」はミャンマー語で「ともに、一緒に」の意。
決議第5号	「地域支援団体釜石支援センター望」への活動支援として、2024年度に10万円をお献げする。
決議第6号	中部教区「NPO法人ワンダタイム」の活動のため。特に海外医療協力事業として、バングラデシュの病院への医師派遣に必要な経費の一部として、2024年度1年間10万円をお献げする。
決議第7号	中部教区「国際子ども学校 (ELCC)」の活動のため。教材費や遠足の費用等、必要な経費の一部として、2024年度1年間、20万円をお献げする。
決議第8号	日本聖公会婦人会2024、2025年度一般会計補正予算の件

引き続き、被献日献金活用申請について審議、承認された。

【教区婦人会枠】

教区	申請金額	申請目的	実施日
大阪	60,000円	① 秋の修養会	2023年10月18日
		② 大阪教区婦人会100周年記念行事	2023年11月3日
横浜	60,000円	2023年度横浜教区婦人会大会補助	2023年6月27日～28日
東北	60,000円	社会福祉法人「カノンの園」訪問	2023年8月26日
中部	60,000円	① 2024年度長野伝道区女性のつどい	2024年5月11日
		② 2024年度愛岐伝道区婦人研修会	2024年5月18日
京都	60,000円	京都教区婦人会代表者会	2024年7月2日
北関東	60,000円	北関東教区婦人会「静想日」	2024年5月25日
沖縄	60,000円	沖縄教区婦人会研修会	2024年9月16日

【コア枠】

	申請金額	申請目的
コア	200,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・混沌とした世界の状況の中で、私たちが祈り求める平和な世界の実現と感謝箱献金活動の意味を考えながら伝えていくため。 ・東日本大震災後の東北と、適切な時期に能登半島地震被災地の訪問のため。

【神学生枠】

申請者	申請金額	書籍名
薦田久美子	50,000円	聖書ヘブライ語日本語辞典 他 (計4冊)

川島創士	46,120円	チャールズ・ガーキン「キリスト教 本質と歴史」他 (計7冊)
浅海由里恵	20,893円	「ヨハネ福音書入門 その象徴と孤高の思想」他 (計6冊)

【有志グループ枠】

申請者	申請金額	申請目的	
北海道教区 深川聖三一 教会婦人会	30,000円	道北ブロック教会員の親睦、聖餐式、話し合い、ボイストレーニングの会	2024年10月14日
九州教区 女性の会の 集い	50,000円	日聖婦個人会員の、交わりと分かち合いの会	2024年3月2日



18:00 より横浜聖アンデレ教会の夕の礼拝に参加。心をひとつに祈り、暮れてゆく横浜の空とともに、報告や審議ではりつめた会議での疲れをクールダウンした。その後、夕食をとり、久しぶりに会った教友との歓談。初めてお話することができたお仲間。まだコロナの心配が消え去らないので、大きな声でのお話は控えいただき静かに過ごした。

19:30 より、初めての試みにより、オンライン交流。お献げ先のひとつであるサイディア・フラハとのオンライン交流を、との永井会長からの提案が実現した。リアルタイムにサイディア・フラハの施設や子どもたちの様子をみていただくことで、より身近に、顔と顔のみえる関係を大切にしたいと

いう感謝箱献金の本来の条件がかなえられる。ケニアとの時差は6時間くらい。昼ご飯前の授業中の様子等々、サイディア・フラハの代表、荒川勝巳氏によって学園内を案内していただくことができた。正直ZOOM がうまくつながるのか心配もあった。実際には、参加していたほぼ全員が、画面に向かって手を振っている。「こんにちは」「ジャンボ」…言葉は通じなくても横浜の大人たちとケニアの子どもたちは確実に交流を楽しんでいた！百聞は一見に如かずとはこれだ。言葉はいらない。

19日9:00より聖餐式。2023年の逝去者を憶えての祈り。世にある友も召された友も・・・聖歌の歌詞をかみしめる。婦人会は何のためにあるのだろう、本当に必要なのか、何を残すべきなのか。いま私たちの置かれている諸事情を抱えもつての会長会。すがすがしい感動の聖餐式が少し答えを教えてくれたように感じるひとときもあった。

11:00よりグループ討議。あらかじめこちらで決めたA~Fの6グループに分かれて着席し、大きく3つの柱で話し合いを提案した。



- ① 教会に婦人会(女性の会)は必要か?
- ② 婦人会として残したいものとは?
- ③ 婦人会の存在意義とは?

午後は全体発表。ひとグループの発表は5分、その後すぐにそのグループに対しての質疑応答など分かち合いを5分とした。それぞれの教会のさまざまな様子や慣習、働きなどを聞きあい、その様子を想像しつつ、それは楽しい刺激的な時間となった。グループに分かれることで一人ずつ順番に声を上げ、自分の思いを少しでも吐き出し、考えをまとめていくことができたのではないだろうか。みなさんが「変化を恐れていない」と感じた。教区の再編や合併、教会だって存続の危機なら合同で、ということもあるかもしれない。今年はそういった心配の声が出なかった。これは皆さんが変化を受けて立とうとしていらっしゃるのだな・・・と。実際に会長の交代等で若返ったのかもしれないが、それ以上に婦人会を支えている皆さんの若々しい柔軟な心がそうさせていると思う。

13:00まで話し合いは続き、いよいよ別れの時。永井会長より閉会のご挨拶、閉会の祈りと続き、

14:00には解散となった。それぞれのご自宅へ、教会へ、教区へ。たくさんのお土産を届けてくださることと思う。来年はいよいよ第28(定期)総会を迎える。日時は2025年6月17日(火)、18日(水)の二日間と発表された。



(副会長 鷺沢和子

日本聖公会婦人会 第27(定期)総会后第2回会長会議録

『会長会を振り返って』より抜粋)

教区婦人会・感謝箱献金事務局から

北海道教区

会長代行 沖田京子

主の平安をお祈り申し上げます。



昨年の9月北海道教区婦人会第40(定期)総会に於いて、会長ではなく、教会を選出するとの議案が出され可決。選挙の結果札幌キリスト教会が選出されました。教会に持ち帰り話し合いましたが、役員が中々決まらない苦慮の中、今年の北海道教区の標語に出会い支えられ進むことが出来ました。

「どのような道を歩むときにも主をしれ 主はあなたの道筋をまっすぐにして下さる」箴言3章6節

北海道は23教会(21教会、2伝道所)道央、道北、道東、道南と4ブロックに分かれ、内12教会婦人会が休会中です。高齢化が進み毎年休会が増えています。大きな教会も休会となり、数人で守っている教会もあります。

嬉しいニュースとして、道北ブロック集会在10月14日(月・祝)、深川聖三一教会が担当教会で6年ぶりに開催。喜びの中役員、信徒が出席の予定です。

◎北海道独自の婦人会の働きとして「一食献金」、「教役者プレゼント献金」があります。

- ・一食献金：海外で食することが出来ない子どもたち(貧困、内乱、紛争)の為、月に一食抜いて献金する。道北ブロック集会在1984年提案され、翌年の第21(定期)総会に於いて決議されました。
- ・教役者プレゼント献金：教役者、退職教役者、教役者と死別された配偶者の方々に、クリスマスプレゼントをしています。

この2件の献金は現在も続けられています。

北関東教区

会長 秋葉 緑

2024年9月16日(祝)立教学院聖パウロ礼拝堂で、高橋主教様司式・説教による北関東教区「信徒一致の日」合同礼拝が執り行われました。東京教区からも多くの聖職・信徒の方々のご出席下さったのは嬉しいことでした。

礼拝後には北関東教区婦人会主催で「教区婦人会100周年記念バザー」が開催されました。このバザーは、当初から北関東教区の教役者と教役者のご家族、聖職養成、伝道を支える資金を集めるために開催しています。11の教会、リグリマ・ジャパン、アジア学院等の諸団体、合計16の出店。コロナ



禍ではバザーを中止していたので、久しぶりの開催に出店者も購入者も実に楽しそう。笑顔と会話に満ち溢れた時間になったことは言うまでもありません。

2024年11月に創立100周年を迎える北関東教区婦人会。諸先輩方が祈りと共に紡いできた伝道の支援と交わりを、時代に沿った形で、これからも繋いでいきたいと思っています。



横浜教区

会長 林 洋子

横浜教区では、6月に執事按手式が行われ、レセプション準備のお手伝いをいたしました。

数年ぶりの按手式でマルタ会は大忙しでしたが、大勢の人たちがお祝いに来られ和やかな喜びあふれるその時を一緒に共有できたことをうれしく思いました。また2年に一度行われる1泊2日の大会の下見に出かけ、宿泊施設の見学などを行い



来年予定されている大会の日時、場所の確定をしました。現在9月は2025年1月の総会に向けて準備を始めているところです。日本聖公会婦人会会長会でもお話がありましたが、横浜教区でもアンケートの結果婦人会がない教会が約半数あります。静想日は4地域がそれぞれ輪番でお当番が決められ守られていましたが当番に当たる教会が婦人会がないのでお当番が受けられないという話もあります。婦人会の活動はその教会、地域などの宣教委員会に引き継がれている所もあります。これから婦人会のある教会、ない教会などの課題について話し合っていきたいと考えております。



大阪教区

会長 辻 節子



2024.5.9 昇天日礼拝 代表者会 於 川口基督教会

大阪教区婦人会は、5月の総会后、新しい代表者会が発足し101年目の歩みを始めたところです。昨年の組織成立100周年記念礼拝では、長年にわたって積み重ねられてきた女性たちの働きを覚え、次の世代に繋いでいく使命を再確認いたしました。愛と奉仕、信仰の交わりを大切にしながら、同時に若い世代が担いやすい形にするにはどうすればよいか……。難しい課題ですが、「教区婦人会の今後を考える会」が立ち上げられ、2年後の総会を目指した模索が始まっています。

10月には、ACWCJ 関西支部の一日研修会、福音記者聖ルカ日に1開催される秋の修養会など、教派や教会の垣根を越え女性たちが共に学ぶ機会が予定されています。またコロナ禍で中断していた聖ヨハネ学園ミス・ブール記念ホームでの喫茶奉仕も、11月から回数を減らして再開されます。顔と顔を合わせてお互いに励まし合い、婦人会に連なる交わりの楽しさを共有する場になればと願っています。



神戸教区

会長 溝川いづみ

神戸教区婦人会内では昨年度末より、やむを得ない事情から休会や解散の報が届いています。引き継いだ過去の資料と比べましても、会員数は10年前の4割程度まで減りました。コロナ禍で2020年の婦人会大

会は中止になり、今後の参考にと、今までの大会を振り返りますと、大会開催地であった教会で現在残っている婦人会が少ない上に、残っていても会員数が激減しているという現実も目の当たりにしました。

一方で事務局・大会開催地選考の場にもなった昨年5月に開かれた代表者会・親睦会では、数年ぶりに顔を合わせた交わりの中での皆さまの笑顔に触れ、直接会う大切さを実感いたしました。

次回大会開催予定の2026年は神戸教区150年、教区婦人会80年という節目の年にあたります。この機会に教区婦人会とその大会の在り方を見直し、変化を恐れずに良い方向に教区婦人会が繋がっていけるよう、教会婦人会の声をきくアンケートを取ることにスタートしました。諸先輩方の今までの働きに感謝し、これからは神様からのお導きを信じ進んでいくのみと思っています。



感謝箱献金事務局 (コア)

運営委員長 井田涼子

「出会いの日々に感謝」

会長会で今年のお届け先が決まると、活動について問い合わせたり、連絡を受けたりする機会が一気に増えます。また、オンラインでサイディアフラハの子どもたちの歌を聞いたり、ダンスに参加したり。ミャンマーの内戦の中で暮らす人々とも出会います。様々な活動報告が届き、家にいながら世界とつながります。国際子ども学校のワークショップに参加して「子どもの人権」について学ぶと、戦争の中で危険と共に過ごす子どもたちのことがとても気になります。出会いに満ちた日々を感謝し、皆さまと分かち合うことがこれからの課題だと考えています。日本が戦争の加害国であったことを忘れず、いつも平和を愛し人権を大切にする国であるように祈りながら。

2024年度被献日献金活用実施報告

【教区婦人会枠】

東北教区

会長 赤坂康子

雨宮春子さんにタンザニアのお話を聞く会を開催

昨年の9月に北海道教区婦人会総会に参加させていただいた時に、JOCs(日本キリスト教海外医療協力会)のワーカーで札幌聖ミカエル教会の信徒の雨宮春子さんのタンザニアでのお働きを知りました。東北教区婦人会でお話をさせていただきたいと思い役員会で計画を立て、6月29日(土)に緑深き十和田湖畔のヴァイアル山荘で開催することが出来ました。

お天気にも恵まれ、盛岡からの貸し切りバスには仙台婦人会の方々も加わり、現地には八戸聖ルカ教会、大館聖パウロ教会の婦人会や信徒の方々、全部で35名程が集まりました。雨宮春子さんはお母様の寿子さんと北海道から飛行機、そして青森空港からレンタカーでいらしてくださいました。

越山哲也司祭の司式による礼拝、聖歌 489 番を皆で歌い、その後湖を眺めながら各自で好きな場所に座り、昼食をとりました。13 時からパイプ椅子と座布団を部屋いっぱいに敷き詰めて、プロジェクターを用いてのお話を伺いました。雨宮さんは小学 3 年生の時、日曜学校のキャンプで「発展途上国では自分と同じ年の子どもたちがこんな生活をしている、大きくなったらそんな国に行ってみたい」と思ったのがワーカーを目指したきっかけだったそうです。そして看護師、助産師の資格を取り医療経験を積まれました。日本とは全く違った環境の中で生まれてくる赤ちゃんの誕生に関わる医療に携わり、現地の人たちの中で共に生活をされたお話を伺い、14時半に終了となりました。

次の日は盛岡聖公会の「み言葉の礼拝」で勧話をしていただき、父上の故雨宮大朔司祭様の春子さんのお働きを応援する思いもお聞きしました。看護師、助産師として命との向き合いについての素晴らしいお話でした。

礼拝で皆さまからお献げいただきました献金 40,500 円は「グレースの会～貧困にある人々の命のために祈り歩む会」にお届けいたしました。

日聖婦被献日献金からのご支援と役員の皆さまのお働きに心より感謝申し上げます。



京都教区

代表 大房和子

7月2日に京都教区婦人会代表者会を京都聖ヨハネ教会で開催しました。京都教区の各教会婦人会の代表者、傍聴者、教役者、合わせて61名が出席しました。

午前中は、要項に基づいて、諸報告、諸議案の審議をしました。

午後からは、全員参加の話し合いを1時間半近く行い、各教会の婦人会の現状や課題、今後の婦人会のあり方等の意見交換をしました。主な意見を以下に記します。

- ・今年いっぱい婦人会を解散し男性を含めた活動を検討している。
- ・婦人会員の減少、若い人が入ってこない。
- ・コロナ禍以降、婦人会の活動ができない。
- ・婦人会という名称に抵抗がある。
- ・教会の中で、男女関係なく役割を担うことが必要である。



・被献日献金、感謝箱献金等の働きは大切なことだから続けるべきだ。

このように様々な意見が出されました。熱心に話し合われたことが心に残っています。

また、高齢化による事務局の担い手不足も大きな課題です。代表者会において、新たに「京都教区婦人会の運営を考える会」を設置することが決まりました。今後、この会を中心に婦人会のあり方を検討していきます。

会の終わりに、京都教区婦人会が4年間続けて感謝箱献金を献げている「京都YWCA自立援助ホームカルーナ」の女性スタッフから、児童養護施設を退所した20歳までの女子の居場所作りの活動や支援のお願い等のお話を聞きました。「会場の方から物資提供のお話があり感謝している」とのことで、実際に現場のお話を聞く機会をもつことができよかったですと思いました。

2年間、京都教区の北の端にある北陸伝道区が事務局を担当しました。この代表者会における役員者の交通費を補助していただき感謝しております。

中部教区

会長 長井登茂子

○中部教区長野伝道区女性のつどい 「飯山の風、こどもたちの声」



5月11日(土)に長野県飯山市の飯山復活教会において開催されました。長野伝道区に加え、新潟伝道区の三条、直江津、高田の教会から、そして教役者も含めて31名の方が参加されました。午前中に「NPO法人ルカこども発達支援ルーム」の小野望さんの「一緒に子育てをしよう」の講演、その後は教会の前にある飯山市子ども館「きらら」の見学でした。今年は久しぶりに昼食を共にし、飯山の「笹ずし」や行事があると作るという信徒さん手作りの「いもなます」を頂きました。午後からは聖餐式、その後解散でしたが、他の

教会の信徒同士が集まるのが少なくなり皆さんとお話ができ充実した一日を過ごすことが出来ました。

○中部教区愛岐伝道区女性研修会 「明治村聖ヨハネ教会堂にて聖餐式」

5月18日(土)、愛知県犬山市にある博物館明治村の聖ヨハネ教会堂(1907年に献堂された京都聖ヨハネ教会の旧礼拝堂)にて行われました。当日は、相原太郎司祭の司式、柳川真太郎信徒宣教者の奨励により聖餐式が行われ、約60人が参加しました。コロナ禍を経て、愛岐伝道区全体での対面の集まり自体、本当に久しぶりのことで、一緒に聖餐式を捧げる喜びを分かち合いました。特筆すべきこととしては、1890年代に製作されたクロフ&ワレン社の大きなリードオルガンを奏楽で用いたことです。このオルガンは1965年に明治村に寄贈されたものですが、その時すでに音が出ず、見るだけのオルガンとして展示されていました。しかし2019年、明治村の明治改元150周年事業の一環として修復されました。そのような事情で、今回、おそらく約60年ぶりに、このオルガンの音色を日本聖公会の聖餐式で用いることができたことも大きな喜びでした。



沖縄教区

会長 富本牧子

2024年9月16日、沖縄教区婦人会を4年ぶりに開催しました。コロナ禍で共に集うことが出来なかった日々、修道院として慣れ親しんだ聖ジョージの家で48名の参加者が共に祈り、賛美する喜びを分かち合いました。普段、遠いためなかなか研修会に参加できない離島からの参加者のためにその交通費として被献日献金の教区婦人会枠を活用させていただきました。

テーマは、「祈りの度にあなた方のことを思い起こし、絶えず感謝しています。」(エペソの信徒への手紙1:16)です。

1部は11:00からの聖餐式で始まり、上原主教による司式、岩佐司祭の説教がありました。岩佐司祭のお話の中で、私たちは自分の信仰、自分の救い、自分の教会の活動だけでなく、離れていてもみんなで他の教会の仲間のために祈り、隣りにいてくれることに感謝し合う、そのような神様の愛がわたしたちのことを更に励まし、神様の国を広げていく宣教にもなっていくというメッセージをいただきました。

昼食をはさんで、2部はバイブルシェアリングを行いました。昨年清里で行った宣教協議会でのバイブルシェアリングがとてもよかったので前もってリーダー研修も行き、5つのグループをくじで分けて行いました。初めて経験する人もいたかと思いますが、新しい気付きがあり、また、聖書をこんなに丁寧に読んだことはないなど、皆さん楽しい学びだったようです。

全体の分かち合いの前に、「みんながみんな英雄」という歌を共に歌い、ダンスもしながら楽しいひとときを持ちました。

皆さんの笑顔を見ながら主による交わりの喜びを神様に感謝いたしました。



【有志グループ枠】

九州教区「女性の会の集い」日聖婦有志グループ

九州教区 女性の課題担当者 柴田康子(福岡聖パウロ教会)

前回集まって2年近く経った、2024年3月2日に再会の時を得ました。武藤謙一主教様のつよい思いもあり、今回は九州の全教会に呼びかけました。有志グループのある7つの教会に加えて、グループを持たない3つ教会の方々の参加を得ました。聖餐式に与り昼食を共にし、語り合いの時を持つことができました。共に年を重ねていく中にも、たくましく明るく教会を力強く支えておられる方々でした。夫々現在の

様子や、教会の様子など報告しあい、あっという間に予定の時間が過ぎてしまいました。スピーチの中で直方キリスト教会の大口聖公会訪問のお話、鹿児島復活教会の『子ども食堂』のお話を載せた “「女性の会の集い」の報告” を九州全教会に配布いたしました。

その一部を紹介しますと、直方キリスト教会の女性4人と男性2人が司祭と共に大口聖公会を訪問、水俣病考証館見学、礼拝、食事を共にする中で、『出かけて会う喜び』に、又高齢化・信徒減少と同じ課題の中にも希望を失わず祈り今できることを心を込めてするのだと感じられたそうです。また鹿児島復活教会の『子供食堂』の地域に開かれた教会、社会に係り奉仕する教会、地域のボランティアの方々と共に教会全体の宣教として活動されています。力強い働きをされています。

私たち九州女性の会は組織を出しました。有志グループとしての集団は、『小さいながらも共に繋がり教会の為につくしたい』と願う者たちの集まりです。日聖婦の感謝箱献金をはじめ、大切な働きに感謝しつつ、祈りながら一人でも多くの友につながっていくことができるように励みたいと思っています。今回私たち有志グループの為に貴重な被献日献金をいただきました。ありがとうございます。31人の参加を得、交通費補助として使わせていただきました。尚、聖餐式の信施は、能登半島地震の被災者支援活動のために献金させていただきました。



編集後記

能登半島の豪雨で被災された皆さまにはお見舞いを申し上げますとともに、主のお守りと平安をお祈り致します。

今号は第2回会長会のご報告をはじめ、各教区婦人会の近況、被献日献金活用実施のご報告を掲載しております。

会員以外の方々にもお目通しいただけると幸いです。どうぞ、教会の皆さまにもお勧めください。宜しく願い致します。

日本聖公会婦人会 会長 永井眞由美



日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。

『ニュースレター』『ガリラヤのほとり』も掲載しています。

ぜひご覧ください！

<http://www.nskk.org/fujinkai/>

